

(様式第 10)

東医大発 741 号

平成 26 年 10 月 6 日

厚生労働大臣 殿

開設者名 学校法人東京医科大学
理事長 臼井 正彦

東京医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第の規定に基づき、平成 25 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	東京都新宿区新宿6-1-1
氏 名	学校法人東京医科大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

東京医科大学病院

3 所在の場所

東京都新宿区西新宿6-7-1	電話 (03) 3342-6111
----------------	-------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="radio"/> 1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/> 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
1 血液内科 2 呼吸器内科 3 循環器内科 4 糖尿病内分泌内科 5 リウマチ科	
6 神経内科 7 消化器内科 8 腎臓内科 9 老年内科	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 1 呼吸器外科 2 心臓血管外科 3 消化器外科 4 小児外科 5 乳腺外科	
診療実績	

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

<input checked="" type="radio"/> 1精神科	<input checked="" type="radio"/> 2小児科	<input checked="" type="radio"/> 3整形外科	<input checked="" type="radio"/> 4脳神経外科	<input checked="" type="radio"/> 5皮膚科	<input checked="" type="radio"/> 6泌尿器科	<input type="radio"/> 7産婦人科
<input checked="" type="radio"/> 8産科	<input checked="" type="radio"/> 9婦人科	<input checked="" type="radio"/> 10眼科	<input checked="" type="radio"/> 11耳鼻咽喉科	<input checked="" type="radio"/> 12放射線科	<input checked="" type="radio"/> 13放射線診断科	
<input checked="" type="radio"/> 14放射線治療科	<input checked="" type="radio"/> 15麻酔科	<input checked="" type="radio"/> 16救急科				

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無
歯科と組み合わせた診療科名 1 歯科口腔外科 2 矯正歯科	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 臨床検査科 2 眼科 3 形成外科 4 リハビリテーション 5 病理診断科

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
27床	床	床	床	988床	1,015床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成26年10月1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	665人	242人	679.6人	看護補助者	82人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	19人	13人	19.9人	理学療法士	13人	臨床検査技師	114人
薬 剤 師	63人	0人	63.0人	作業療法士	3人	衛生検査技師	1人
保 健 師	3人	0人	3.0人	視能訓練士	13人	その他	0人
助産師	35人	0人	35.0人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	1人
看護師	949人	5人	951.8人	臨床工学技士	19人	医療社会事業従事者	9人
准看護師	2人	0人	2.0人	栄 養 士	2人	その他の技術員	8人
歯科衛生士	4人	0人	4.0人	歯科技工士	2人	事務職員	348人
管理栄養士	10人	3人	10.3人	診療放射線技師	67人	その他の職員	29人

- (注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成26年10月1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	14人	眼科専門医	5人
外科専門医	27人	耳鼻咽喉科専門医	8人
精神科専門医	2人	放射線科専門医	8人
小児科専門医	14人	脳神経外科専門医	7人
皮膚科専門医	4人	整形外科専門医	4人
泌尿器科専門医	4人	麻酔科専門医	7人
産婦人科専門医	14人	救急科専門医	7人
		合 計	125人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合 計
1日当たり平均入院患者数	768人	7人	775人
1日当たり平均外来患者数	2,551人	109人	2,660人
1日当たり平均調剤数			796剤
必要医師数			237.430人
必要歯科医師数			6.425人
必要薬剤師数			28.0人
必要(准)看護師数			507.0人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日

で除した数を記入すること。

- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
			病床数	心電計		
集中治療室	693.88m ²	鉄筋コンクリート	病床数	16床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 121.43m ² [移動式の場合] 台数 台		病床数	7床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 32.40m ² [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	143.71m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 生化学自動分析装置、全自動化学発光免疫測定装置等			
細菌検査室	127.39m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 微生物感受性分析装置、血液培養全自動分析装置等			
病理検査室	330.93m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 密閉式自動固定包埋装置、クリオスタット			
病理解剖室	75.64m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) L字型昇降機(病理解剖台)、臓器撮影台、ホルマリン希釈装置			
研究室	1459.76m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 遺伝子測定装置、顕微鏡、フリーザー			
講義室	1283.70m ²	鉄筋コンクリート	室数	10室	収容定員	1,118人
図書室	654.10m ²	鉄筋コンクリート	室数	1室	蔵書数	135,000冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成26年4月1日～平成26年7月31日	
紹介率	60.5%	逆紹介率	44.1%
算出根拠 A: 紹介患者の数			9,640人
B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数			7,770人
C: 救急用自動車によって搬入された患者の数			1,015人
D: 初診の患者の数			17,600人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
ペメトレキセド静脈内投与及びシスプラチン静脈内投与の併用療法 肺癌(扁平上皮肺癌及び小細胞肺癌を除き、病理学的見地から完全に切除されたと判断されるものに限る。)	21人
術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法 原発性乳がん(エストロゲン受容体が陽性であって、HER2が陰性のものに限る。)	6人
術前のホルモン療法及びゾレドロン酸投与の併用療法 閉経後のホルモン感受性の乳がん(長径が五センチメートル以下であって、リンパ節転移及び遠隔転移しておらず、かつ、エストロゲン受容体が陽性であって、HER2が陰性のものに限る。)	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	140人	・膿疱性乾癬	17人
・多発性硬化症	86人	・広範脊柱管狭窄症	6人
・重症筋無力症	111人	・原発性胆汁性肝硬変	41人
・全身性エリテマトーデス	202人	・重症急性膵炎	7人
・スモン	0人	・特発性大腿骨頭壊死症	17人
・再生不良性貧血	53人	・混合性結合組織病	23人
・サルコイドーシス	106人	・原発性免疫不全症候群	8人
・筋萎縮性側索硬化症	12人	・特発性間質性肺炎	4人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	120人	・網膜色素変性症	58人
・特発性血小板減少性紫斑病	119人	・プリオン病	0人
・結節性動脈周囲炎	26人	・肺動脈性肺高血圧症	2人
・潰瘍性大腸炎	231人	・神経線維腫症	6人
・大動脈炎症候群	16人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ピュルガー病	26人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	4人
・天疱瘡	24人	・慢性血栓性肺高血圧症	1人
・脊髄小脳変性症	52人	・ライソゾーム病	6人
・クローン病	65人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	1人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	9人	・脊髄性筋萎縮症	0人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	142人	・球脊髄性筋萎縮症	2人
・アミロイドーシス	4人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	8人
・後縦靭帯骨化症	65人	・肥大型心筋症	5人
・ハンチントン病	1人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	27人	・ミトコンドリア病	1人
・ウェグナー肉芽腫症	15人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	2人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	50人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	4人	・黄色靭帯骨化症	4人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	1人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	25人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・救急搬送患者地域連携紹介加算
・歯科外来診療環境体制加算	・総合評価加算
・歯科診療特別対応連携加算	・病棟薬剤業務実施加算
・特定機能病院入院基本料	・データ提出加算
・臨床研修病院入院診療加算	・救命救急入院料
・救急医療管理加算	・特定集中治療室管理料
・超急性期脳卒中加算	・新生児特定集中治療室管理料1
・妊産婦緊急搬送入院加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・診療録管理体制加算	・小児入院医療管理料1
・急性期看護補助体制加算	
・療養環境加算	
・重症者等療養環境特別加算	
・無菌治療室管理加算	
・緩和ケア診療加算	
・精神科身体合併症管理加算	
・摂食障害入院医療管理加算	
・がん診療連携拠点病院加算	
・栄養サポートチーム加算	
・医療安全対策加算	
・感染防止対策加算	
・患者サポート体制充実加算	
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	
・ハイリスク妊婦管理加算	
・ハイリスク分娩管理加算	
・退院調整加算	
・新生児特定集中治療室退院調整加算	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料	・植込型心電図検査
・心臓ペースメーカー指導管理料(植込型除細動器移行加算)	・時間内歩行試験
・糖尿病合併症管理料	・ヘッドアップティルト試験
・がん性疼痛緩和指導管理料	・皮下連続式グルコース測定
・がん患者指導管理料	・長期継続頭蓋内脳波検査
・外来緩和ケア管理料	・神経学的検査
・移植後患者指導管理料	・補聴器適合検査
・糖尿病透析予防指導管理料	・ロービジョン検査判断料
・院内トリアージ実施料	・コンタクトレンズ検査料1
・外来リハビリテーション診療料	・小児食物アレルギー負荷検査
・外来放射線照射診療料	・内服・点滴誘発試験
・ニコチン依存症管理料	・センチネルリンパ節生検(乳がんに係るものに限る。)
・地域連携診療計画管理料	・画像診断管理加算1
・がん治療連携計画策定料	・CT撮影及びMRI撮影
・がん治療連携管理料	・冠動脈CT撮影加算
・肝炎インターフェロン治療計画料	・大腸CT撮影加算
・薬剤管理指導料	・心臓MRI撮影加算
・医療機器安全管理料1	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・医療機器安全管理料2	・外来化学療法加算1
・医療機器安全管理料(歯科)	・無菌製剤処理料
・歯科治療総合医療管理料	・心大血管疾患リハビリテーション料(I)
・造血器腫瘍遺伝子検査	・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・運動器リハビリテーション料(I)
・検体検査管理加算(I)	・呼吸器リハビリテーション料(I)
・検体検査管理加算(IV)	・がん患者リハビリテーション料
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・集団コミュニケーション療法料

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・歯科口腔リハビリテーション料2	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの)	・植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極除去術(レーザーシースを用いるもの)
・エタノールの局所注入(副甲状腺に対するもの)	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・透析液水質確保加算	・大動脈バルーンポンピング法(IABP法)
・一酸化窒素吸入療法	・補助人工心臓
・CAD/CAM冠	・経皮的冠動脈遮断術
・歯科技工加算	・ダメージコントロール手術
・皮膚悪性腫瘍切除術(悪性黒色腫センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)	・体外衝撃波胆石破砕術
・組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・腹腔鏡下肝切除術
・腫瘍脊椎骨全摘術	・体外衝撃波腎石破砕術
・原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算	・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)&及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・体外衝撃波腎・尿管結石破砕術
・網膜附着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・網膜再建術	・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術
・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)
・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)	・輸血管理料 I
・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)	・輸血適正使用加算
・乳がんセンチネルリンパ節加算1、乳がんセンチネルリンパ節加算2	・貯血式自己血輸血管理体制加算
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・自己生体組織接着剤作成術
・経皮的冠動脈形成術	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・内視鏡手術用支援機器加算
・経皮的冠動脈ステント留置術	・歯周組織再生誘導手術
・経皮的中隔心筋焼灼術	・手術時歯根面レーザー応用加算
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術	・麻酔管理料(I)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・超音波骨折療法(四肢の骨折(治療のために手術中に行われるものを除く。)のうち、観血的手術を実施したものの(開放骨折又は粉碎骨折に係るものを除く。)に係るものに限る。)	・
・根治的前立腺全摘除術における内視鏡下ロボット支援前立腺がん	・
・肝切除手術における画像支援ナビゲーション	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	診療科ごと曜日を決め、概ね週に1度、検討会を開催している他、「臨床病理検討会」を毎月最終月曜日に定例開催している。
剖 検 の 状 況	剖検症例数 36例 / 剖検率 4.2%

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
Hedgehogによる白血病幹細胞維持の分子メカニズム	岡部 聖一	内科学1	600,000	補委	文部科学省
miRNAによる悪性リンパ腫の治療効果判定予測と生物学的意義の解明	吉澤 成一郎	内科学1	700,000	補委	文部科学省
脂質メディエーターによる骨髄腫細胞の制御	田中 裕子	内科学1	1,200,000	補委	文部科学省
新型半導体γカメラを用いた被曝低減検査の冠動脈病変診断精度に関する研究	近森 大志郎	内科学2	1,100,000	補委	文部科学省
臓器障害進展予測指標としての脈波解析指標の有用性の確立	富山 博史	内科学2	500,000	補委	文部科学省
心室中部閉塞型肥大型心筋症の原因遺伝子解析	稲垣 夏子	内科学2	1,900,000	補委	文部科学省
リゾホスファチジルセリン産生酵素のSLE病態における役割とバイオマーカーへの展開	沢田 哲治	内科学3	1,300,000	補委	文部科学省
膵癌に対する診断・治療を目的としたナノ粒子によるバイオマーカーの確立	糸井 隆夫	内科学4	1,200,000	補委	文部科学省
睡眠覚醒リズムからみた集中治療環境でのせん妄病態とメラトニン agonist 治療の効果	高江洲 義和	精神医学	800,000	補委	文部科学省
新生児の脳循環と体循環の経時的評価ー脳自動調節能の考察ー	高見 剛	小児科学	200,000	補委	文部科学省
アンチエイジング機能を利用した新たな癌治療法の開発	工藤 勇人	外科学1	1,600,000	補委	文部科学省
組織工学的手法による生体内で修復治癒する人工血管の開発	西部 俊哉	外科学2	900,000	補委	文部科学省
血清マイクロRNAによる膵癌早期診断の可能性	土田 明彦	外科学3	1,100,000	補委	文部科学省
肝内胆管がんに対する複合型細径ファイバを用いた光線力学治療研究	粕谷 和彦	外科学3	1,300,000	補委	文部科学省
IL-27による樹状細胞とマクロファージを用いた新しい抗腫瘍免疫細胞療法の開発	久田 将之	外科学3	900,000	補委	文部科学省
眼内悪性リンパ腫の病態解明ならびに新規治療に向けた研究	後藤 浩	眼科学	1,400,000	補委	文部科学省
抗アクアポリン4抗体陽性視神経脊髄炎に対する基礎的病態解析と新規治療法の開発	毛塚 剛司	眼科学	1,400,000	補委	文部科学省
緑内障に対する新しい免疫学的・遺伝子学的診断、治療、経過観察法の開発	丸山 勝彦	眼科学	1,000,000	補委	文部科学省
ミクログリアを介した角膜神経再生メカニズムの解析と治療法の開発	服部 貴明	眼科学	1,300,000	補委	文部科学省
Vogt-小柳-原田病難治例の治療前判断と予後改善のための免疫学的研究	奥貫 陽子	眼科学	1,700,000	補委	文部科学省
実験的視神経炎の視機能解析と病態メカニズムの解析	松永 芳径	眼科学	1,600,000	補委	文部科学省
子宮頸がんにおける早期診断マーカーとしての血清中miRNAの探索と解析	西 洋孝	産科婦人科学	1,900,000	補委	文部科学省
ヒト椎間板性腰痛における椎間板変性および椎間板への神経侵入の分子機構	遠藤 健司	整形外科	1,500,000	補委	文部科学省
ヒト椎間板性腰痛における椎間板変性と神経侵入に対するプロスタノイドによる抑制機構	鈴木 秀和	整形外科	1,700,000	補委	文部科学省
人工関節再置換率抑制を目指す、マイクロRNA・EP4作動薬併用による新規治療法	小坂 泰一	整形外科	1,400,000	補委	文部科学省

小計 25件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
選択的COX-2阻害剤の椎間板性腰痛に対する効果の基礎研究	澤地 恭昇	整形外科学	1,400,000	③補委 文部科学省
皮膚リンパ腫に対するエピジェネティクスを基盤とした併用療法の効果と作用機序の解析	坪井 良治	皮膚科学	1,500,000	③補委 文部科学省
PU, 1を過剰発現させた肥満細胞によるCD11c蛋白の発現誘導の検討	伊藤 友章	皮膚科学	1,300,000	③補委 文部科学省
尋常性ざ瘡における微生物叢の網羅的解析とマラセチア関与の解明	斎藤 磨美	皮膚科学	900,000	③補委 文部科学省
表皮角化細胞の脱核メカニズム解明と不全角化性疾患における関連因子の動態解析	山本 真実	皮膚科学	1,300,000	③補委 文部科学省
人工関節置換術用HXLPE臼蓋厚がクリーブ抵抗性に及ぼす影響:変形速度と分子構造	山本 謙吾	整形外科学	1,000,000	③補委 文部科学省
ヒト頸椎と腰椎由来椎間板における神経侵入と椎間板変性に対する薬剤応答の相違	田中 英俊	整形外科学	1,200,000	③補委 文部科学省
炎症性免疫応答の制御を介する新規NF κ B阻害剤による泌尿器系癌の治療戦略の確立	中島 淳	泌尿器科学	1,700,000	③補委 文部科学省
前立腺癌の悪性度と関連する legumain の機能解明と治療への応用	大野 芳正	泌尿器科学	1,100,000	③補委 文部科学省
放射線治療におけるイメージングバイオマーカーの有効性	中山 秀次	放射線医学	700,000	③補委 文部科学省
敗血症性脳症誘発機序の基礎的解明	内野 博之	麻酔科学	600,000	③補委 文部科学省
敗血症肝不全誘発機序の基礎的解明	田上 正	麻酔科学	1,000,000	③補委 文部科学省
アラーム機能を備えた医療機器の適正な使用と運用に関する実証的検証研究	柿沼 孝泰	麻酔科学	700,000	③補委 文部科学省
敗血症性脳症誘発機序における脳内ミトコンドリア機能との連関	宮田 和人	麻酔科学	1,900,000	③補委 文部科学省
腰仙椎の構造変異を基盤とした慢性腰痛の発生機序解明と新規治療法確立のための考究	福井 秀公	麻酔科学	1,800,000	③補委 文部科学省
敗血症性脳症に対する新規脳保護法確立への試み	宮下 亮一	麻酔科学	1,900,000	③補委 文部科学省
口腔癌の顎骨浸潤・骨破壊に対するPTH・COX-2による新たな治療戦略	里見 貴史	口腔外科学	1,100,000	③補委 文部科学省
ハイドロキシアパタイト骨補填材の骨親和性に対するCOX-2の役割	長谷川 温	口腔外科学	800,000	③補委 文部科学省
自己複製・多分化能細胞を標的とした骨形成因子溶出型吸収性メッシュプレートの開発	虻川 東嗣	口腔外科学	800,000	③補委 文部科学省
COX-2由来のVEGFによる治癒促進メカニズムの解析と新たな再生誘導療法の確立	藤川 考	口腔外科学	2,000,000	③補委 文部科学省
TRPV1を介した嚥下障害への新しい治療法の確立	立花 絵理子	口腔外科学	1,800,000	③補委 文部科学省
ICU入室長期呼吸器管理予定患者に対する口腔軟組織損傷予防手法に関する研究	安田 卓史	口腔外科学	1,400,000	③補委 文部科学省
口腔癌頸部リンパ節転移に対するCOX-2・TAMをターゲットにした新たな治療戦略	河野 通秀	口腔外科学	1,100,000	③補委 文部科学省
舌痛と口腔乾燥の部位特異的評価により得られる治療法の確立	岡本 彩子	口腔外科学	200,000	③補委 文部科学省
未知血友病A発生機構の解明	稲葉 浩	臨床検査医学	1,500,000	③補委 文部科学省

小計 25件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
救急初期診療の可視化に基づいたチーム医療のシミュレーション教育システムの研究	行岡 哲男	救急医学	5,800,000	⑩補委 文部科学省
新規開発の定型化アプローチを用いた救急診療技術の伝承とIT応用手法の実践的研究	織田 順	救急医学	2,800,000	⑩補委 文部科学省
複数領域の融合による、相互の納得を目的とした説明同意過程の標準化に関する研究	織田 順	救急医学	900,000	⑩補委 文部科学省
医学生・研修医・指導医の共感性に関する探索研究	平山 陽示	総合診療科	700,000	⑩補委 文部科学省
医療面接における教員からの振り返りに対する検討	原田 芳巳	総合診療科	600,000	⑩補委 文部科学省
初期臨床研修医に対するSNAPPSモデルを用いた外来診療能力の向上の検討	関 正康	総合診療科	500,000	⑩補委 文部科学省
接触過敏におけるASK1の機能解析	水上 潤哉	総合診療科	900,000	⑩補委 文部科学省
海外から持ち込まれる多剤耐性菌の感染制御体制の構築	水野 泰孝	感染制御部	1,500,000	⑩補委 文部科学省
我が国の医療機関における業務継続計画(BCP)策定率の改善・向上を図る取り組み	大原 達美	医療情報室	800,000	⑩補委 文部科学省
難治性稀少肺疾患(肺胞蛋白症、先天性間質性肺疾患、オスラー病)に関する調査研究	瀬戸口 靖弘	内科学1	1,300,000	⑩補委 厚生労働省
成人難治性白血病におけるバイオマーカーに基づく層別化治療法の確立	伊藤 良和	内科学1	1,200,000	⑩補委 厚生労働省
リンパ脈管筋腫症に対するシロリムスの安全性確立のための医師主導治験	中山 秀章	内科学1	500,000	⑩補委 厚生労働省
治験の実施に関する研究[エブレノン]	山科 章	内科学2	1,000,000	⑩補委 厚生労働省
門脈血行異常症に関する調査研究	森安 史典	内科学4	8,616,000	⑩補委 厚生労働省
難治性膝疾患に関する調査研究	糸井 隆夫	内科学4	250,000	⑩補委 厚生労働省
新たな地域精神保健医療体制の構築のための実態把握および活動の評価等に関する研究	丸田 敏雅	精神医学	800,000	⑩補委 厚生労働省
重症のインフルエンザによる肺炎・脳症の病態解析・診断・治療に関する研究	河島 尚志	小児科学	1,500,000	⑩補委 厚生労働省
肺癌に対するWT1ペプチド免疫療法の開発	池田 徳彦	外科学1	300,000	⑩補委 厚生労働省
肺がんの分子診断法および分子標的治療法の開発	池田 徳彦	外科学1	1,000,000	⑩補委 厚生労働省
NCDを用いた胸腔鏡による肺癌切除手術の実態調査	池田 徳彦	外科学1	1,000,000	⑩補委 厚生労働省
がん化パスウェイネットワークが規定するがんの分子標的の解析並びに予後予測法の確立	加藤 靖文	外科学1	1,800,000	⑩補委 厚生労働省
ベーチェット病に関する調査研究	後藤 浩	眼科学	1,000,000	⑩補委 厚生労働省
急性網膜壊死の診断基準に関する調査研究	後藤 浩	眼科学	1,000,000	⑩補委 厚生労働省
IgG4関連疾患に関する調査研究	後藤 浩	眼科学	1,300,000	⑩補委 厚生労働省
HIV感染症及びその合併症の課題を克服する研究	久慈 直昭	産科婦人科学	2,000,000	⑩補委 厚生労働省

小計 25件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
脊柱靱帯骨化症に関する調査研究	山本 謙吾	整形外科	500,000	補委 厚生労働省
前庭機能異常に関する調査研究	鈴木 衛	耳鼻咽喉科学	11,324,000	補委 厚生労働省
遺伝性難聴および外耳、中耳、内耳奇形に関する調査研究	鈴木 衛	耳鼻咽喉科学	1,000,000	補委 厚生労働省
咽喉頭癌に対する経口的ロボット支援手術の安全性・有効性に関する多施設臨床試験	鈴木 衛	耳鼻咽喉科学	8,000,000	補委 厚生労働省
国内未承認エイズ治療薬等を用いたHIV感染症治療薬及びHIV感染症至適治療法の開発に係る応用研究	福武 勝幸	臨床検査医学	95,000,000	補委 厚生労働省
エイズ対策研究事業の企画と評価に関する研究	福武 勝幸	臨床検査医学	2,167,000	補委 厚生労働省
血友病とその治療に伴う合併症の克服に関する研究	稲葉 浩	臨床検査医学	1,500,000	補委 厚生労働省
わが国のHIV感染者における慢性腎臓病の有病率と予後に関する研究	村松 崇	臨床検査医学	2,000,000	補委 厚生労働省
メディカルコントロール体制の充実強化に係る研究	行岡 哲男	救急医学	5,100,000	補委 厚生労働省
脳卒中や心筋梗塞に関する医療連携構築に関する研究	行岡 哲男	救急医学	1,000,000	補委 厚生労働省
脳卒中や心筋梗塞に関する医療連携構築に関する研究	織田 順	救急医学	1,500,000	補委 厚生労働省
救急医療体制の推進に関する研究	織田 順	救急医学	120,000	補委 厚生労働省
我が国への侵入が危惧される蚊媒介性ウイルス感染症に対する総合的対策の確立に関する研究	濱田 篤郎	渡航者医療センター	1,400,000	補委 厚生労働省
トラベラーズワクチン等の品質、有効性等の評価手法の検討に関する研究	濱田 篤郎	渡航者医療センター	500,000	補委 厚生労働省
呼吸器悪性腫瘍に対する標準治療確立のための多施設共同研究	池田 徳彦	外科学1	450,000	補委 独立行政法人 国立がん研究センター
個別化がん医療を目指した新規バイオマーカー開発	土田 明彦	外科学3	1,200,000	補委 独立行政法人 国立がん研究センター
循環器領域における感染対策および感染症の診療指針の確立に関する研究	荻野 均	外科学2	900,000	補委 独立行政法人 国立循環器病研究センター
日本人における大脳白質病変の老年症候群に及ぼす作用と危険因子の解明に関する研究	羽生 春夫	高齢総合医学	1,500,000	補委 独立行政法人 国立長寿医療研究センター
発達障害の包括的診断・治療プログラム開発に関する研究	宮島 祐	小児科学	1,000,000	補委 独立行政法人 国立精神・神経医療研究センター
災害医療救護訓練の科学的解析に基づく都市減災コミュニティの創造に関する研究開発	太田 祥	救急医学	2,300,000	補委 独立行政法人 科学技術振興機構
献体による外傷手術臨床解剖学的研究会	本間 宙	救急医学	8,707,000	補委 厚生労働省

小計 21件

合計 96件

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	【別紙参照】			
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
～				
70				
～				

社

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。
- 5 平成二十六年度中の業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年度の改正前の基準による実績についても報告すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	【別紙参照】			
2				
3				
4				
5				
～				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを入力すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文(別紙)

NO	発表者氏名	所属部署	題名	雑誌名
1	Katagiri S.	血液内科	Targeting the Hedgehog signaling pathway limits the self-renewal of BCR-ABL1 positive leukemia cells	Clinical Cancer Research, 19(6): 1422-1432, 2013
2	Katagiri S.	血液内科	The BCL2L11 (BIM) deletion polymorphism is a criterion for discontinuation of Imatinib in chronic myeloid leukemia	British Journal of Haematology, 160: 269-272, 2013
3	Matsumoto T.	血液内科	ABK Dose Finding Study Group. Clinical efficacy and safety of arbekacin sulfate in patients with MRSA sepsis or pneumonia: a multi-institutional study	Journal of Infection and Chemotherapy. 19(1): 128-137, 2013
4	Okabe S.	血液内科	Activity of histone deacetylase inhibitors and an Aurora kinase inhibitor in BCR-ABL-expressing leukemia cells: Combination of HDAC and Aurora inhibitors in BCR-ABL-expressing cells	Cancer Cell International. 13(1):32, 2013
5	Kimura Y.	血液内科	Transfusion-transmitted hepatitis E in a patient with myelodysplastic syndrome	Blood Transfusion. 2: 1-4, 2013
6	Asano M.	血液内科	Epstein-Barr virus-associated inflammatory pseudotumor-like follicular dendritic cell tumor of the spleen without recurrence for 3 years after splenectomy: a case report	Journal of Case Reports. 2: 235715.4, 2013
7	Okabe S.	血液内科	Activity of omacetaxine mepesuccinate against ponatinib resistant BCR-ABL positive cells	Blood. 122(17): 3086-3088, 2013
8	Okabe S.	血液内科	Efficacy of ponatinib against ABL tyrosine kinase inhibitor-resistant leukemia cells	Biochemical and Biophysical Research Communication. 435(3):506-511, 2013
9	Okabe S.	血液内科	Efficacy of the dual PI3K and mTOR inhibitor NVP-BEZ235 in combination with nilotinib against BCR-ABL-positive leukemia cells involves the ABL kinase domain mutation	Cancer Biology and Therapy. 15(2):207-215, 2013
10	Umezumi T.	血液内科	Leukemia cell to endothelial cell communication via exosomal miRNAs	Oncogene. 32(22): 2747-2755, 2013
11	Mizoguchi I.	血液内科	Sustained upregulation of effector natural killer cells in chronic myeloid leukemia after discontinuation of imatinib	Cancer Science. 104(9): 1146-1153, 2013
12	Soeda S.	血液内科	Clinical relevance of plasma miR-106b levels in patients with chronic obstructive pulmonary disease	International Journal of Molecular Medicine. 31(3): 533-539, 2013
13	Gotoh M.	血液内科	Human herpesvirus 6 reactivation on the 30th day after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation can predict grade 2-4 acute graft-versus-host disease.	Transpl Infect Dis. 2014 Jun;16(3):440-9.
14	Katagiri S.	血液内科	[Case report; Disseminated Mycobacterium abscessus infection with hemophagocytic syndrome during treatment of chronic lymphocytic leukemia].	Nihon Naika Gakkai Zasshi. 2014 Mar 10;103(3):734-7.

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文(別紙)

NO	発表者氏名	所属部署	題名	雑誌名
15	Gotoh M.	血液内科	A novel reduced-intensity umbilical cord blood transplantation using a recombinant G-CSF combined with high-dose Ara-C for active myeloid malignancies.	Bone Marrow Transplant. 2014 Jul;49(7):955-60.
16	Imanishi S.	血液内科	Constitutive activation of the ATM/BRCA1 pathway prevents DNA damage-induced apoptosis in 5-azacytidine-resistant cell lines.	Biochem Pharmacol. 2014 Jun 1;89(3):361-9.
17	Okabe S.	血液内科	Combining the ABL1 kinase inhibitor ponatinib and the histone deacetylase inhibitor vorinostat: a potential treatment for BCR-ABL-positive leukemia.	PLoS One. 2014 Feb 28;9(2):e89080.
18	Tanaka H.	循環器内科	Comparison of myocardial perfusion imaging between the new high-speed gamma camera and the standard anger camera	Circ J 77(4): 1009-1017, 2013
19	Yamashita J.	循環器内科	Usefulness of functional assessment in the treatment of patients with moderate angiographic paclitaxel-eluting stent restenosis	Circ J 77(5): 1180-1185, 2013
20	Hirano M.	循環器内科	Dose-finding study of landiolol hydrochloride: a short-acting β 1-blocker for controlling heart rate during coronary computed-tomography angiography in Japan	Adv Ther 30(9): 803-818, 2013
21	Tanaka H.	循環器内科	Relationship of SYNTAX score to myocardial ischemia as assessed on myocardial perfusion imaging	Circ J 77(10): 2772-2777, 2013
22	Nakayama M.	循環器内科	Low salt intake and changes in serum sodium levels in the combination therapy of low-dose hydrochlorothiazide and angiotensin II receptor blocker	Circ J 77(10): 2567-2572, 2013
23	Matsumoto C.	循環器内科	Erythrocyte stearidonic acid and other n-3 fatty acids and CHD in the Physicians' Health Study	Br J Nutr 109(11): 2044-2049, 2013
24	Matsumoto C.	循環器内科	Red blood cell MUFAs and risk of coronary artery disease in the Physicians' Health Study	Am J Clin Nutr 98(3): 749-754, 2013
25	Matsumoto C.	循環器内科	Plasma phospholipid saturated fatty acids and heart failure risk in the Physicians' Health Study	Clin Nutr 32(5): 819-823, 2013
26	Nakayama M.	循環器内科	Low salt intake and changes in serum sodium levels in the combination therapy of low-dose hydrochlorothiazide and angiotensin II receptor blocker	Circ J 77(10): 2567-2572, 2013
27	Igarashi Y.	循環器内科	Usefulness of phase analysis to differentiate ischemic and non-ischemic etiologies of left ventricular systolic dysfunction in patients with heart failure.	Circ J 78(1): 141-150, 2014
28	Hirano M.	循環器内科	A randomized, double-blind, placebo-controlled, phase III study of the short-acting β 1-adrenergic receptor blocker landiolol hydrochloride for coronary computed tomography angiography in Japanese patients with suspected ischemic cardiac disease.	Clin Drug Investig 34(1): 53-62, 2014

小計14

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文(別紙)

NO	発表者氏名	所属部署	題名	雑誌名
29	Aizawa H	神経内科	Neurosyphilis presenting as frontal and mesial temporal encephalitis	Internal Medicine 52:2381-2382, 2013
30	Terashi H	神経内科	Independent regulation of the cycle and acceleration in parkinsonian gait analyzed by a long-term daily monitoring system	Eur Neurol 69:134-141, 2013
31	Furuichi Y.	消化器内科	Usefulness of transnasal argon plasma coagulation for esophageal varices compared with the peroral method: a randomized and prospective clinical study	Digestion 87(1): 17-22, 2013
32	Sugimoto K.	消化器内科	Hepatocellular carcinoma treated with sorafenib: early detection of treatment response and major adverse events by contrast-enhanced US	Liver Int 33(4): 605-615, 2013
33	Itoi T.	消化器内科	TG13 indications and techniques for biliary drainage in acute cholangitis (with videos)	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 20(1): 71-80, 2013
34	Itoi T.	消化器内科	Creation of simulated papillae for endoscopic sphincterotomy and papillectomy training by using in vivo and ex vivo pig model (with videos)	Gastrointest Endosc 77(5): 793-800, 2013
35	Kataoka M.	消化器内科	Mucosal cutting biopsy technique for histological diagnosis of suspected gastrointestinal stromal tumors of the stomach	Dig Endosc 25(3): 274-280, 2013
36	Tonozuka R.	消化器内科	Endoscopic double stenting for the treatment of malignant biliary and duodenal obstruction due to pancreatic cancer	Dig Endosc Suppl 2: 100-108, 2013
37	Kurihara T.	消化器内科	Endoscopic ultrasonography-guided pancreatic duct drainage after failed endoscopic retrograde cholangiopancreatography in patients with malignant and benign pancreatic duct obstructions	Dig Endosc Suppl 2: 109-116, 2013
38	Kataoka M.	消化器内科	Comparison of hemostasis using bipolar hemostatic forceps with hemostasis by endoscopic hemoclipping for nonvariceal upper gastrointestinal bleeding in a prospective non-randomized trial	Surg Endosc 27(8): 3035-3038, 2013
39	Harada A.	消化器内科	Clinical impact of endoscopic devices for colorectal endoscopic submucosal dissection	Digestion 88(2): 72-78, 2013
40	Furuichi Y.	消化器内科	Noninvasive diagnostic method for idiopathic portal hypertension based on measurements of liver and spleen stiffness by ARFI elastography	J Gastroenterol 48(9): 1061-1068, 2013
41	Furuichi Y.	消化器内科	Obliteration of gastric varices improves the arrival time of ultrasound contrast agents in hepatic artery and vein	J Gastroenterol Hepatol 28(9): 1526-1531, 2013
42	Itoi T.	消化器内科	The role of peroral video cholangioscopy in patients with IgG4-related sclerosing cholangitis	J Gastroenterol 48(4): 504-514, 2013

小計14

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文(別紙)

NO	発表者氏名	所属部署	題名	雑誌名
43	Itoi T.	消化器内科	Extrahepatic bile duct measurement by using transabdominal ultrasound in Japanese adults: multi-center prospective study	J Gastroenterol 48(9): 1045-1050, 2013
44	Tanaka R.	消化器内科	Is the double-guidewire technique superior to the pancreatic duct guidewire technique in cases of pancreatic duct opacification?	J Gastroenterol Hepatol 28(11): 1787-1793, 2013
45	Itoi T.	消化器内科	Novel EUS-guided gastrojejunostomy technique using a new double-balloon enteric tube and lumen-apposing metal stent (with videos)	Gastrointest Endosc 78(6): 934-939, 2013
46	Umeda J.	消化器内科	Serum p53 antibody is not associated with p53 immunoreactivity in patients with pancreatobiliary cancers	J Oncol 2013: 170625, 2013
47	Itoi T.	消化器内科	Evaluation of 19-gauge endoscopic ultrasonography aspiration needles using various echoendoscopes	Endosc Int Open 1: E24-E30, 2013
48	Sofuni A.	消化器内科	Real-time virtual sonography visualization and its clinical application in biliopancreatic disease	World J Gastroenterol 19(42): 7419-7425, 2013
49	Itoi T.	消化器内科	Hemostasis using a fully covered self-expandable biliary metal stent for massive bleeding during EUS-guided cystogastrostomy (with video)	Gastrointest Endosc 2013 [in press]
50	Gotoda T.	消化器内科	Endoscopic resection (endoscopic mucosal resection/endoscopic submucosal dissection) for early gastric cancer	Digestive Endoscopy 25(Suppl.1): 55-63, 2013
51	Itoi T.	消化器内科	Endoscopic ultrasonography-guided pancreatic duct access: Techniques and literature review of pancreatography, transmural drainage and rendezvous techniques	Dig Endosc 25(3): 241-252, 2013
52	Itoi T.	消化器内科	Current status and issues regarding biliary stenting in unresectable biliary obstruction	Dig Endosc Suppl 2: 63-70, 2013
53	Itoi T.	消化器内科	Lethal post-endoscopic retrograde cholangiopancreatography pancreatitis following fully covered metal stent placement in distal biliary obstruction due to unresectable cholangiocarcinoma	Dig Endosc Suppl 2: 117-121, 2013
54	Itoi T.	消化器内科	Endoscopic ultrasonography-guided cholecystogastrostomy using a lumen-apposing metal stent as an alternative to extrahepatic bile duct drainage in pancreatic cancer with duodenal invasion	Dig Endosc Suppl 2: 137-141, 2013
55	Itoi T.	消化器内科	Endoscopic ultrasound-guided choledochoantrostomy as an alternative extrahepatic bile duct drainage method in pancreatic cancer with duodenal invasion	Dig Endosc Suppl 2: 142-145, 2013
56	Itoi T.	消化器内科	New fully-covered self-expandable metal stent for endoscopic ultrasonography-guided intervention in infectious walled-off pancreatic necrosis (with video)	J Hepatobiliary Pancreat Sci 20(3): 403-406, 2013

小計14

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文(別紙)

NO	発表者氏名	所属部署	題名	雑誌名
57	Tonozuka R.	消化器内科	Hemostasis using a fully covered self-expandable metal stent for marked bleeding from the bile duct following stent removal (with videos)	J Hepatobiliary Pancreat Sci 20(2): 254-256, 2013
58	Tsuchiya T.	消化器内科	Biliary duct-to-duct anastomosis using magnets in a Billroth II gastrectomy patient	Endoscopy 45 Suppl 2: E243-244, 2013
59	Sugimoto K.	消化器内科	A case of mucinous cystic neoplasm of the liver: description of Sonazoid-enhanced ultrasound imaging and histopathologic findings	J Med Ultrason 40(3): 243-250, 2013
60	Sugimoto K.	消化器内科	Focal nodular hyperplasia-like lesion of the liver with focal adenoma features associated with idiopathic portal hypertension	Hepatol Res. 2013 Nov 14 [Epub ahead of print]
61	Furuichi Y.	消化器内科	Distinction of white patches in candidiasis and fibrin caps of esophageal varices by narrow band imaging	Turk J Gastroenterol, 2013 (in press)
62	Kawai T.	消化器内科	Letters, techniques and images: Evolution of ultrathin endoscope	Dig Endosc 25(4): 467, 2013
63	Kawai T.	消化器内科	Letters, techniques and images: Is the cause of gastric mucosal damage due only to aspirin use?	Dig Endosc 25(2): 214-215, 2013
64	Okada T	腎臓内科	Clinical significance of microscopic haematuria in diabetic nephropathy in type 2 diabetes patients with overt proteinuria.	Nephrology 18(8): 563-568, 2013
65	Azusa Iwata	腎臓内科	Is it necessary to collect and store 24-h urine samples at 4°C?	Clin Exp Nephrol 17: 144-146, 2013
66	Iwasawa H	腎臓内科	Phosphate handling by end-stage kidneys and benefits of residual renal function on phosphate removal in patients on haemodialysis	Nephrology 18: 285-291, 2013
67	Fukazawa R.	高齢診療科	Subgroups of Alzheimer's disease associated with diabetes mellitus based on brain imaging.	Dement Geriatr Cogn Disord 35:280-290, 2013
68	Sakurai H.	高齢診療科	Effects of cilostazol on cognition and regional cerebral blood flow in patients with Alzheimer's disease and cerebrovascular disease: A pilot study.	Geriatr Gerontol Int 13:90-97, 2013
69	Sakai M.	高齢診療科	Rate of progression of Alzheimer's disease in younger versus older patients - A longitudinal single-photon emission computed tomography study.	Geriatr Gerontol Int 13:555-562, 2013
70	Iwamoto T.	高齢診療科	Newly developed comprehensive geriatric assessment initiative "Dr. SUPERMAN" as a convenient screening test.	Geriatr Gerontol Int 13:811-812, 2013

小計14

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文(別紙)

NO	発表者氏名	所属部署	題名	雑誌名
71	Ito K.	高齢診療科	J-COSMIC Study Group.Prediction of outcomes in MCI with 123I-IMP-CBF SPECT: a multicenter prospective cohprt study.	Ann Nucl Med 27:898-906, 2013
72	Miyashita A.	高齢診療科	SORL1 Is Genetically Associated with Late-Onset Alzheimer's Disease in Japanese, Koreans and Caucasians.	Plos One 2013;8(4):e58618
73	Ikeda M.	高齢診療科	Long-term safety and efficacy of donepezil in patients with dementia with Lewy bodies: results from a 52-week, open-label, multicenter extension study.	Dement Geriatr Cogn Disord. 36:229-241, 2013.
74	Koyama S.	高齢診療科	Preoperative prediction of macrophage infiltration by 3-D tomographic ultrasound in endoarterectomized carotid plaques in elderly patients.	Geriatr Gerontol Int+ 2013 Oct;13(4):834-41.
75	Inaba H.	臨床検査医学科	Identification and characterization of an adenine to guanine transition within intron 10 of the factor VIII gene as a causative mutation in a patient with mild haemophilia A	Haemophilia 19(1):100-105, 2013
76	Inaba H.	臨床検査医学科	Genotypic and phenotypic features of Japanese patients with mild to moderate hemophilia A	Int J Hematol 97(6):758-764, 2013
77	Maruta T.	メンタルヘルス科	Towards the ICD-11: Initiatives taken by the Japanese Society for Psychiatry and Neurology to address needs of patients and clinicians	Psychiatry Clin Neurosci 67(5): 283-284, 2013
78	Sato S.	小児科	Inflammatory cytokines as predictors of resistance to intravenous immunoglobulin therapy in Kawasaki disease patients.	Int J Rheum Dis. 2013 Apr;16(2):168-72(IF:1.650)
79	Morichi S.	小児科	Expressions of brain-derived neurotrophic factor (BDNF) in cerebrospinal fluid and plasma of children with meningitis and encephalitis/encephalopathy.	International Journal of Neuroscience.Jan;123 (1):17-23 (IF=1.216)
80	Kashiwagi Y.	小児科	Thermography for Evaluation of Localized Scleroderma Treated with Methotrexate and Corticosteroid	Indian Journal of Pediatrics 80 (11), 980-1, 2013(IF=0.715)
81	Nakajima J.	小児科	Novel FIG4 mutations in Yunis-Varon syndrome.	J Hum Genet. 2013 Dec;58(12):822-4. doi: 10.1038(IF=2.365)
82	Ono S.	呼吸器外科・甲状腺外科	Podoplanin-positive cancer associated fibroblast could have prognostic value independent of cancer cell phenotype in stage I lung squamous cell carcinoma: Utility of combining analysis of both cancer cell phenotype and cancer associated fibroblast phenotype	CHEST 143(4): 963-970, 2013
83	Shimada Y.	呼吸器外科・甲状腺外科	Prognostic factors and the significance of treatment after recurrence in completely resected stage I non-small cell lung cancer	CHEST 143(6): 1626-1634, 2013
84	Kudo Y.	呼吸器外科・甲状腺外科	Proposal on incorporating blood vessel invasion into the T classification parts as a practical staging system for stage I non-small cell lung cancer.	Lung Cancer 81(2): 187-193, 2013

小計14

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文(別紙)

NO	発表者氏名	所属部署	題名	雑誌名
85	Tsutsui H.	呼吸器外科・ 甲状腺外科	Management of thyroid carcinoma showing thymus-like differentiation (CASTLE) invading the trachea	Surgery Today 43(11): 1261-1268, 2013
86	Shimada Y.	呼吸器外科・ 甲状腺外科	Cancer stem cell-related marker expression in lung adenocarcinoma and relevance of histologic subtypes based on IASLC/ATS/ERS classification	Onco Targets and Therapy 6: 1597-1604, 2013
87	Kudo Y.	呼吸器外科・ 甲状腺外科	Chylothorax in POEMS syndrome	The Tohoku Journal of Experimental Medicine
88	Yamada K.	乳腺科	Accuracy and validity of sentinel lymph node biopsy for breast cancer using a photosensitizer: 8-year follow-up	Lasers in Surgery and Medicine, 45:558-563, 2013
89	Kimura F.	乳腺科	Radiation exposure during sentinel lymph node biopsy for breast cancer: effect on pregnant female physicians	Breast Cancer, 30, 2013
90	Kawate T.	乳腺科	DJ-1 protein expression as a predictor of pathological complete remission after neoadjuvant chemotherapy in breast cancer patients	Breast Cancer Research and Treatment, 139:51-59, 2013
91	Wakabayashi Y.	眼科	Axial length as a factor associated with visual outcome after vitrectomy for diabetic macular edema	Invest Ophthalmol Vis Sci 54:6384-6840, 2013
92	Maruyama K.	眼科	Incidence of deepening of the upper eyelid sulcus after topical use of tafluprost ophthalmic solution in Japanese	Clin Ophthalmol 7: 1441-1446, 2013
93	Kawakami S.	眼科	A case of presumed choroidal metastasis from carcinoid tumor treated by photodynamic therapy with verteporfin	Clinical Ophthalmology 7: 2003-2006, 2013
94	Hattori T.	眼科	Depiction of cavity formation in Terrien marginal degeneration by anterior segment optical coherence tomography	Cornea 32: 615-8, 2013
95	Umazume K.	眼科	Effects of soluble CD14 and cytokine levels on diabetic macular edema and visual acuity	Retina 33: 1020-5, 2013
96	An X.	眼科	Suppression of experimental autoimmune optic neuritis by the novel agent fingolimod.	J Neuro-Ophthalmol 33: 143-148, 2013
97	Ueda S.	眼科	Angiolymphoid hyperplasia with eosinophilia occurring in bilateral eyelids	BMC Ophthalmol 13: 38, 2013
98	Tajima K.	眼科	Methicillin-resistant Staphylococcus aureus keratitis in a dog	Veterinary Ophthalmology 16:240-243, 2013

小計14

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文(別紙)

NO	発表者氏名	所属部署	題名	雑誌名
99	Maruyama K.	眼科	Incidence of deepening of the upper eyelid sulcus after topical use of travoprost ophthalmic solution in Japanese	J ucoma23(3):160-163,2014
100	Umazume K.	眼科	Prediction of severe cardiac involvement by fundus lesion in sarcoidosis	Jpn J Imol.58(1):81-85,2014
101	Kagoya R.	脳神経外科	Utility of distortion-product otoacoustic emission tests for identifying the nerve origin of acoustic neuroma	Otolaryngol Head Neck Surg 148(2): 267-271, 2013
102	Miyakoshi A.	脳神経外科	Hydrocephalus associated with vestibular schwannomas: perioperative changes in cerebrospinal fluid	Acta Neurochir 155(7): 1271-1276, 2013
103	Teranishi Y.	脳神経外科	Determination of the keyhole position in a lateral suboccipital retrosigmoid approach	Neurologia medico-chirurgica, in press, 2013
104	Akimoto J.	脳神経外科	Symptomatic suprasellar endodermal cyst, possibly originating from the Seesel's pouch, containing fluid with a high carcinoembryonic antigen level	Brain Tumor Pathol 30: 128-133, 2013
105	Tomita T.	脳神経外科	Clinicopathological significance of expression of nestin, a neural stem/progenitor cell marker, in human glioma tissue	Brain Tumor Pathology: epub, 2013
106	Muragaki Y.	脳神経外科	Phase II clinical study on intraoperative photodynamic therapy with talaporfin sodium and semiconductor laser in patients with malignant brain tumors	Journal of Neurosurgery 119(4): 845-852, 2013
107	Miki Y.	脳神経外科	Photodynamic therapy in combination with talaporfin sodium induces mitochondrial apoptotic cell death accompanied with necrosis in glioma cells	Biol Pharm Bull 36(2): 215-221, 2013
108	Umahara T.	脳神経外科	Local extent of HMGB1 in atherosclerotic lesions of human main cerebral and carotid arteries	Histol Histopathol: epub, 2013
109	Koyama S.	脳神経外科	Preoperative prediction of macrophage infiltration by 3-D tomographic ultrasound in endarterectomized carotid plaques in elderly patients	Geriat Ferontol int 13(4): 834-841, 2013
110	Tsutsumi M.	脳神経外科	Photodynamic therapy with talaporfin sodium induces dose-dependent apoptotic cell death in human glioma cell lines	Photodiagnosis Photodyn Ther 10(2): 103-110, 2013
111	Takahashi M.	脳神経外科	Novel training course of neuroresuscitation for neurosurgeon in Japan: Primary Neurosurgical Life Support Course	Neuroepidemiology 41: 297-298, 2013
112	Yokoyama T.	脳神経外科	Evaluation of the protective effects of cyclosporine A and FK506 on abnormal cytosolic and mitochondrial Ca ²⁺ dynamics during ischemia and exposure to high glutamate concentration in mouse brain slice preparations	J Pharamacological Sci 120(3): 228-240, 2012

小計14

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文(別紙)

NO	発表者氏名	所属部署	題名	雑誌名
113	Jimbo H.	脳神経外科	Efficacy of a new instrument for dural defect repair in anterior skull base reconstruction: a technical note	Acta Neurochir 155(4): 733-736, 2013
114	Tsurukiri J.	脳神経外科	Internal carotid artery dissection at the supraclinoid portion after severe traumatic head injury in a child	SIGNA VITAE 8(2): 67-69, 2013
115	Hashimoto T.	脳神経外科	Usefulness of embolization of the middle meningeal artery for refractory chronic subdural hematomas	Surg Neurol Int 4: 104, 2013
116	Mitsuyama T.	脳神経外科	The Pitfalls in Surgical Management of Lumbar Canal Stenosis Associated with Rheumatoid Arthritis	Neurol med chir 53, 853-860, 2013
117	秋元 治朗	脳神経外科	Photodynamic therapy	Clinical Neuroscience 31(10): 1195-1197, 2013
118	Otsuka K.	耳鼻咽喉科	Efficacy of physical therapy for intractable cupulolithiasis in experimental model	J Laryngol Otol 127:463-437, 2013
119	Otsuka K.	耳鼻咽喉科	Relationship between clinical features and therapeutic approach for benign paroxysmal positional vertigo outcomes	J Laryngol Otol 127: 962-967, 2013
120	Ogawa Y.	耳鼻咽喉科	Intermittent positional downbeat nystagmus of cervical origin.	Auris Nasus Larynx , 2013 (Epub ahead of print)
121	Nakamura K.	耳鼻咽喉科	Type 3 thyroplasty for patients with mutational dysphonia	J Voice 27: 650-654, 2013
122	Tsukahara K.	耳鼻咽喉科	Secondary insertion of Provox®2 using an endotracheal tube	Acta Otolaryngol 133:1317-1321, 2013
123	Nagai N.	耳鼻咽喉科	Ocular vestibular evoked myogenic potentials induced by bone-conducted vibration in patients with unilateral inner ear disease	Acta Otolaryngol , 2013 (Epub ahead of print)
124	Ikeya J.	耳鼻咽喉科	Long-term complications after cochlear implantation	Auris Nasus Larynx 40:525-529, 2013
125	Tokashiki R.	耳鼻咽喉科	Rikkunshito improves globus sensation in patients with proton-pump inhibitor-refractory laryngopharyngeal reflux	World J Gastroenterol 19:5118-5124, 2013
126	Harrison RV.	耳鼻咽喉科	Postnatal maturation of contralateral DPOAE suppression in a precocious animal model (chinchilla) of the human neonate	Acta Otolaryngol 133: 383-389, 2013

小計14

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文(別紙)

NO	発表者氏名	所属部署	題名	雑誌名
127	Sugamata A.	形成外科	Orbital apex syndrome associated with fractures of the inferomedial orbital wall	Clin Ophthalmol 7: 475-478, 2013
128	Sugamata A.	形成外科	Timing of operation for blowout fractures with extraocular muscle entrapment	J Plast Surg Hand Surg. 47(6): 454-457, 2013
129	Matsumura H.	形成外科	A model for quantitative evaluation of skin damage at adhesive wound dressing removal	Int Wound J 10(3): 291-294, 2013
130	Matsumura H.	形成外科	Chronological histological findings of cultured epidermal autograft over bilayer artificial dermis	Burns 39(4): 705-713, 2013
131	Sato M.	形成外科	Flexor tendon repair with barbed suture: an experimental study	Eur J Orthop Surg Traumatol oct 12, 2013
132	Shibata M.	形成外科	A case of orbital sebaceous gland carcinoma developing in an anophthalmic socket 65 years after enucleation	Clin Ophthalmol 7: 1825-1827, 2013
133	Hajime Matsumura	形成外科	Removal of adhesive wound dressing and its effects on the stratum corneum of the skin: comparison of eight different adhesive wound dressings	International Wound Journal
134	Miyashita R.	麻酔科	Cytokine marker measurement in human neuroblastoma cells with supersensitive and multiplex assay: MUSTag technology.	Acta Neurochir Suppl.2013;118:317-20.
135	Uchino H.	麻酔科	Cyclophilin-D inhibition in europrotection: dawn of a new era of mitochondrial medicine.	Acta Neurochir Suppl.2013;118:311-5.
136	Nishiyama T.	麻酔科	Simultaneous measurement of cytosolic and mitochondrial Ca(2+) during ischemia in mice wholebrain slice preparation and its application to drug evaluation.	Acta Neurochir Suppl.2013;118:65-70.
137	Nohira T.	産科・婦人科	Hypertension and metabolic abnormalities later in life after preeclampsia.	Hypertens Res in Preg 1:52-56,2013
138	Nishi H.	産科・婦人科	Estrogen and estrogen receptor induce matrix metalloproteinase-26 expression in endometrial carcinoma cells.	Oncol Rep 30:751-756,2013
139	Tanaka A.	泌尿器科	External Validation of Preoperative Nomograms Predicting Biochemical Recurrence after Radical Prostatectomy	Jpn J Clin Oncol. 43(12):1255-1260, 2013
140	Hashimoto T.	泌尿器科	Preoperative prognostic factors for biochemical recurrence after robot-assisted radical prostatectomy in Japan.	Int J Clin Oncol. 2013, Sept 19

小計14

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文(別紙)

NO	発表者氏名	所属部署	題名	雑誌名
141	Ohno Y.	泌尿器科	Sex and the clinical value of body mass index in patients with clear cell renal cell carcinoma	Br J Cancer, 1:109 (7):1899-1903, 2013
142	Hashimoto T.	泌尿器科	Learning curve and perioperative outcomes of robot assisted radical prostatectomy in 200 initial Japanese cases by a single surgeon.	J Endourol, 27(10):1218-1223, 2013
143	Hashimoto T.	泌尿器科	Chemical cystitis due to crystal violet dye: a case report	J Med Case Rep. 1;7(1):145.2013
144	Gondo T.	泌尿器科	Torsion of a seminoma in an intrascrotal testis: A case report and review of the literature.	Can Urol Assoc J, 7(1-2): 248.2013,
145	Hashimoto T.	泌尿器科	Prognostic implication of infiltrative growth pattern and establishment of novel risk stratification model for survival in patients with upper urinary tract urothelial carcinoma.	Int. J Urol. 2013, Sept
146	Hashimoto T.	泌尿器科	Predictors for positive surgical margins after robot-assisted radical prostatectomy: A single surgeon's series in Japan.	Int. J Urol. 20:873-878, 2013
147	Ohno Y.	泌尿器科	Clinical variables for predicting metastatic renal cell carcinoma patients who might not benefit from cytoreductive nephrectomy: neutrophil-to-lymphocyte ratio and performance status.	Int J Clin Oncol 19(1):139-45, 2013
148	Hashimoto T.	泌尿器科	Clinical significance of preoperative peripheral blood neutrophil count in patients with non-metastatic upper urinary tract carcinoma	World J Urol. 2013 Aug;31(4):953-8.
149	Ohno Y.	泌尿器科	Association of legumain expression pattern with prostate cancer invasiveness and aggressiveness.	World J Urol. 2013 Apr;31(2):359-64
150	Gondo T.	泌尿器科	Preoperative prediction of malignant involvement of resected ureters in patients undergoing radical cystectomy for bladder cancer	Int J Urol. 2013 May;20(5):501-6.
151	Gondo T.	泌尿器科	Factors predicting incisional surgical site infection in patients undergoing open radical cystectomy for bladder cancer.	Int J Clin Oncol. 2013 Dec 11
152	Tanaka A.	泌尿器科	Urethral condyloma acuminata in an elderly patient : a case report	Hinyokika Kiyo 2013 Feb;59(2):133-5.
153	Yoshimura N.	放射線科	Distinguishing hepatic hemangiomas from metastatic tumors using T1 mapping on gadoxetic-acid-enhanced MRI	Magn Reson Imaging 31(1): 23-27,2013
154	Ikeda N.	放射線科	Three dimensional computed tomography lung modeling is useful in simulation and navigation of lung cancer surgery	Ann Thorac Cardiovas 19(1): 1-5,2013

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文(別紙)

NO	発表者氏名	所属部署	題名	雑誌名
155	Kobayashi N.	放射線科	Tumor response after low-dose preoperative radiotherapy combined with chemotherapy for squamous cell esophageal carcinoma	Anticancer Res 33(3): 1157-1161,2013
156	Tanaka H.	放射線科	Comparison of myocardial perfusion imaging between the new high-speed gamma camera and the standard anger camera	Circ J 77(4): 1009-1017,2013
157	Nakayama H.	放射線科	Delayed radiotherapy for patients with localized prostate cancer : validation by propensity score matching	Anticancer Res 33(4): 1629-1633,2013
158	Sugimoto K.	放射線科	Hepatocellular carcinoma treated with sorafenib : early detection of treatment response and major adverse events by contrast-enhanced US	Liver Int 33(4): 605-615,2013
159	Saito K.	放射線科	Assessing liver function using dynamic Gd-EOB-DTPA-enhanced MRI with a standard 5-phase imaging protocol	J Magn Reson Imaging 37(5): 1109-1114,2013
160	Saji H.	放射線科	Virtual segmentectomy based on high-quality three-dimensional lung modelling from computed tomography images	Interact Cardiovasc Thorac Surg 17(2): 227-232,2013
161	Mikami R.	放射線科	Preliminary results of radiotherapy for primary intraocular non-Hodgkin lymphoma	Leuk Lymphyoma 54(10): 2181-2184,2013
162	Nogi S.	放射線科	Significance of the number of brain metastases for identifying patients who don't need whole brain radiotherapy : implication as oligometastases of the brain	Journal of Radiosurgery and SBRT 2(2): 119-126,2013
163	Yoshmura M.	放射線科	Thyroid remnant ablation with 1110MBq of ¹³¹ I in outpatients : measurement of effective dose to household members and establishment of safety precautions	Q J Nucl Med Mol Imaging 57(1): 101-108,2013
164	Furuichi Y.	内視鏡センター	Usefulness of transnasal argon plasma coagulation for esophageal varices compared with the peroral method: a randomized and prospective clinical study	Digestion 87(1):17-22, 2013
165	Kataoka M.	内視鏡センター	Mucosal cutting biopsy technique for histological diagnosis of suspected gastrointestinal stromal tumors of the stomach	Dig Endosc 25(3): 274-280, 2013
166	Itoi T.	内視鏡センター	Creation of simulated papillae for endoscopic sphincterotomy and papillectomy training by using in vivo and ex vivo pig model (with videos)	Gastrointest Endosc 77(5): 793-800, 2013
167	Kataoka M.	内視鏡センター	Comparison of hemostasis using bipolar hemostatic forceps with hemostasis by endoscopic hemoclipping for nonvariceal upper gastrointestinal bleeding in a prospective non-randomized trial	Surg Endosc 27(8): 3035-3038, 2013
168	Kataoka M.	内視鏡センター	Clinicopathological characteristic and clinical handling of the patients with 2 cm or less gastric GISTs	Springerplus 2: 469, 2013

小計14

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文(別紙)

NO	発表者氏名	所属部署	題名	雑誌名
169	Kawai T.	内視鏡センター	Upper gastrointestinal complications induced by anti-platelet agents	Clin J Gastroenterol 6: 264-268, 2013
170	Kawai T.	内視鏡センター	Letters, techniques and images: Is the case of gastric mucosal damage due only to aspirin use?	Digestive Endoscopy 25(2): 214-215, 2013
171	Kawai T.	内視鏡センター	Letters, techniques and images: Evolution of ultrathin endoscope	Digestive Endoscopy 25: 467, 2013
172	Shigeru MASUYAMA ♂	渡航者医療センター	Portable ECG monitor CG-2100---available all over the world and an efficient tool to improve QOL even in the patient with severe arrhythmia	International Journal of Cardiovascular Medicine Vol.13 No1-4, P30, Oct 2013 ISSN 1344-7041
173	Hashimoto T	ロボット手術支援センター	Preoperative prognostic factors for biochemical recurrence after robot-assisted radical prostatectomy in Japan.	Int J Clin Oncol; Sept19 2013
174	Hashimoto T	ロボット手術支援センター	Learning curve and perioperative outcomes of robot assisted radical prostatectomy in 200 initial Japanese cases by a single surgeon.	J Endourol, 27(10):1218-1223, 2013
175	Hashimoto T	ロボット手術支援センター	Predictors for positive surgical margins after robot-assisted radical prostatectomy: A single surgeon's series in Japan.	Int. J Urol. 20:873-878, 2013
176	Gondo T	ロボット手術支援センター	Torsion of a seminoma in an intrascrotal testis: A case report and review of the literature.	Can Urol Assoc J, 7(1-2); 248.2013
177	Noro R1, Yoshimura A.	臨床腫瘍科	Alternating Chemotherapy with Amrubicin Plus Cisplatin and Weekly Administration of Irinotecan Plus Cisplatin for Extensive-stage Small Cell Lung Cancer	Anticancer Res-33-1117-1123-2013
178	Miyanaga A.	臨床腫瘍科	Activity of EGFR-tyrosine kinase and ALK inhibitors for EML4-ALK-rearranged non-small-cell lung cancer harbored coexisting EGFR mutation	BMC Cancer-13-262. doi: 10.1186/1471-2407-13-262-2013
179	Kitamura K.	臨床腫瘍科	Bevacizumab plus chemotherapy for advanced non-squamous non-small-cell lung cancer with malignant pleural effusion	Cancer Chemother Pharmacol-71(2)-457-61-2013
180	Asaoka S.	睡眠学寄付講座	Factors associated with shift work disorder in nurses working with rapid-rotation schedules in Japan: the nurses' sleep health project	Chronobiol Int 30(4): 628-636, 2013
181	Inoue Y.	睡眠学寄付講座	Gabapentin enacarbil in Japanese patients with restless legs syndrome: a 11-week, randomized, double-blind, placebo-controlled, parallel-group study	Curr Med Res Opin 29(1): 13-21, 2013
182	Inoue Y.	睡眠学寄付講座	Reliability, validity, and responsiveness of the Japanese version of International Restless Legs Syndrome Study Group rating scale for restless legs syndrome in a clinical trial setting	Psychiatry Clin Neurosci 67(6): 412-419. 2013

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文(別紙)

NO	発表者氏名	所属部署	題名	雑誌名
183	Inoue Y.	睡眠学寄付講座	Efficacy and safety of rotigotine in Japanese patients with restless legs syndrome: a phase 2, multicenter, randomized, placebo-controlled, double-blind, parallel-group study	Sleep Med 14(11): 1085-1091, 2013
184	Inoue Y.	睡眠学寄付講座	Efficacy and safety of adjunctive modafinil treatment on residual excessive daytime sleepiness among nasal continuous positive airway pressure-treated Japanese patients with obstructive sleep apnea syndrome: a double-blind placebo-controlled study	J Clin Sleep Med 9(8): 751-757, 2013
185	Kobayashi M.	睡眠学寄付講座	Validity of sheet-type portable monitoring device for screening obstructive sleep apnea syndrome	Sleep Breath 17(2): 589-595, 2013
186	Nakamura M.	睡眠学寄付講座	Differences in brain morphological findings between narcolepsy with and without cataplexy	PLoS one 8(11): e81059, 2013
187	Nakamura M.	睡眠学寄付講座	Is nocturnal panic a distinct disease category? Comparison of clinical characteristics among patients with primary nocturnal panic, daytime panic, and coexistence of nocturnal and daytime panic	J Clin Sleep Med 9(5): 461-467, 2013
188	Okajima I.	睡眠学寄付講座	Development and validation of the Japanese version of the Athens Insomnia Scale	Psychiatry Clin Neurosci 67(6): 420-425, 2013
189	Okajima I.	睡眠学寄付講座	Cognitive behavioural therapy with behavioural analysis for pharmacological treatment-resistant chronic insomnia	Psychiatry research 210(2): 515-521, 2013
190	Sasai T.	睡眠学寄付講座	Factors associated with the effect of pramipexole on symptoms of idiopathic REM sleep behavior disorder	Parkinsonism Relat. Disord 19(2): 153-157, 2013
191	Sasai T.	睡眠学寄付講座	Change in heart rate variability precedes the occurrence of periodic leg movements during sleep: an observational study	BMC Neurol 13: 139, 2013
192	Sasai T.	睡眠学寄付講座	Electroencephalographic findings related with mild cognitive impairment in idiopathic rapid eye movement sleep behavior disorder	Sleep 36(12): 1893-1899, 2013
193	Tsuiki S.	睡眠学寄付講座	Oropharyngeal crowding and obesity as predictors of oral appliance treatment response to moderate obstructive sleep apnea	Chest 144(2): 558-563, 2013
194	Inoue Y.	睡眠学寄付講座	History of the researches on rapid eye movement sleep behavior disorder in Japan	Sleep Biol Rhythms 11(Suppl.1): 1-5, 2013
195	Komada Y.	睡眠学寄付講座	Short Sleep, Sleep Disorders and Traffic Accidents	IATSS Research 37: 1-7, 2013
196	Nishida S.	睡眠学寄付講座	Persistence of Secondary Restless Legs Syndrome in a Phantom Limb Caused by End-stage Renal Disease	Intern Med 52(7): 815-818, 2013

小計14

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文(別紙)

NO	発表者氏名	所属部署	題名	雑誌名
197	Tadokoro H.	先端分子探索 寄附講座	Exosomes derived from hypoxic leukemia cells enhance tube formation in endothelial cells	J Biol Chem 288: 34343-34351, 2013
198	Umezumi T.	先端分子探索 寄附講座	Leukemia cell to endothelial cell communication via exosomal miRNAs	Oncogene 32(33): 2747-2755, 2013
199	Soeda S.	先端分子探索 寄附講座	Clinical relevance of plasma miR-106b levels in patients with chronic obstructive pulmonary disease	Int J Mol Med 31(3): 533-539, 2013
200	Katagiri S.	先端分子探索 寄附講座	The BCL2L11 (BIM) deletion polymorphism is a possible criterion for discontinuation of imatinib in chronic myeloid leukaemia patients	Brit J Haematol. 160(2): 269-271, 2013
201	Uchino H.	緩和医療部	Cyclophilin-D Inhibition in Neuroprotection: Dawn of a New Era of Mitochondrial Medicine	Acta Neurochirurgica Supplement 118: 311-16
202	Tsurukiri J.	救命救急センター	Initial middle latency auditory evoked potentials index helps to predict resuscitated outcomes in patients with cardiac arrest	American Journal of Emergency Medicine 31(6)895-899, 2013
203	Ohta S.	救命救急センター	Utilization of automated external defibrillators installed in commonly used areas of Japanese hospitals	Signa Vitae 8(1): 21- 24, 2013
204	Ohta S.	救命救急センター	How, when, and where have rental automated external defibrillators been used in Japan?	Journal of Cardiology in press, 2013
205	Kawaguchi T	薬剤部	Development and validation of the Japanese version of the Decisional Conflict Scale to investigate the value of pharmacists' information: a before and after study.	BMC Med Inform Decis Mak. 13:50

小計9

計 205

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(別紙)

NO	発表者氏名	所属部署	題名	雑誌名
1	Ikeda N.	呼吸器外科・ 甲状腺外科	Three Dimensional Computed Tomography Lung Modeling is Useful in Simulation and Navigation of Lung Cancer Surgery	Ann Thorac Cardiovasc Surg 19(1): 1-5, 2013
2	Ikeda N.	呼吸器外科・ 甲状腺外科	Recent advances in video-assisted thoracoscopic surgery for lung cancer	Asian J Endosc Surg 6(1): 9-13, 2013
3	Iida Y.	呼吸器外科・ 甲状腺外科	Bronchial artery aneurysm	J Vasc Surg 58(1): 217, 2013
4	Imai K.	呼吸器外科・ 甲状腺外科	Cavernous hemangioma of the first rib	Asian Cardiovascular and Thoracic Annals 21(4): 488-489, 2013
5	Kawakami S.	眼科	A case of presumed choroidal metastasis from carcinoid tumor treated by photodynamic therapy with verteporfin	Clinical Ophthalmology 7: 2003-2006, 2013
6	Hattori T.	眼科	Depiction of cavity formation in Terrien marginal degeneration by anterior segment optical coherencetomography	Cornea 32: 615-8, 2013
7	Umazume K.	眼科	Effects of soluble CD14 and cytokine levels on diabetic macular edema and visual acuity	Retina 33: 1020-5, 2013
8	Akimoto J.	脳神経外科	A case of radiologically multicentric but genetically identical multiple glioblastomas	Brain Tumor Pathol: Epub ahead, 2013
9	Nishiyama N.	耳鼻咽喉科	Cochlear implantation in a patient with Epstein syndrome	Auris Nasus Larynx 40:409-412, 2013
10	Tsukahara K.	耳鼻咽喉科	Two cases of small cell cancer of the maxillary sinus treated with cisplatin plus irinotecan and radiotherapy	Case Rep Otolaryngol 2013, Article ID 893638, 4 pages
11	Tsukahara K.	耳鼻咽喉科	A case report of malignant melanoma of the sphenoid sinus	Case Rep Otolaryngol 2013, Article ID 613472, 3 pages
12	Tokashiki K.	耳鼻咽喉科	A case of primary submandibular gland oncocytic carcinoma	Case Rep Otolaryngol 2013, Article ID 384238, 4 pages
13	Tsuboi R.	皮膚科	Repeated scenario simulation to improve competency in critical care: A new approach for nursing education.	Am J Crit Care 22: 33-40, 2013.
14	Mitsubishi Y.	皮膚科	Thermography for evaluation of localized scleroderma treated with methotrexate and corticosteroid.	Indian J Pediatr 80: 980-981, 2013.

小計14

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(別紙)

NO	発表者氏名	所属部署	題名	雑誌名
15	Mitsubishi Y.	皮膚科	Inguinal porokeratosis in a Japanese man.	Dermatol Pract Concept 3: 29-31, 2013.
16	Okubo Y.	皮膚科	Double dose of cetirizine hydrochloride is effective for patients with urticaria resistant: a prospective, randomized, non-blinded, comparative clinical study and assessment of quality of life.	J Dermatolog Treat 24: 153-160, 2013.
17	Yamazaki M.	皮膚科	Secreted aspartic proteinase from <i>Candida albicans</i> acts as a chemoattractant for peripheral neutrophils.	J Dermatol Sci 72: 183-201, 2013.
18	Yamazaki M.	皮膚科	Influence of various treatments including povidone-iodine and healing stimulatory reagents in a rabbit ear wound model.	Int Wound J 10: 542-548, 2013.
19	Kato Y.	皮膚科	Response to hydroxychloroquine in Japanese patients with lupus-related skin disease using the cutaneous lupus erythematosus disease area and severity index (GLASI).	Modern Rheumatology 23: 318-322, 2013.
20	Ito T.	皮膚科	Transcriptional regulation of the mouse CD11c promoter by AP-1 complex with JunD and Fra2 in dendritic cells.	Mol Immunol 53: 295-301, 2013.
21	Ito T.	皮膚科	IL-33 induces a hyporesponsive phenotype in human and mouse mast cells.	J Immunol 190: 531-538, 2013.
22	Kurashige Y.	皮膚科	Subungual verrucous carcinoma with bone invasion.	Int J Dermatol 52: 217-219, 2013
23	Kurashige Y.	皮膚科	Three cases of sacral pressure ulcers presenting primary dermatoporosis on the forearms.	Case Rep Dermatol 5: 73-78, 2013.
24	Kurashige Y.	皮膚科	Eccrine porocarcinoma: Clinical and pathological report of eight cases.	Case Rep Dermatol 5: 259-266, 2013.
25	Kurashige Y.	皮膚科	Acute blistering disease presenting IgG autoantibodies against NC16A and COOH-terminal domains of BP180 and laminin-332, with characteristic distribution of eruptions.	Eur J Dermatol 23: 109-110, 2013.
26	Kurashige Y.	皮膚科	Spontaneous multiple eruptive milia in a 91-year-old man.	J Dermatol 40: 290-291, 2013.
27	Kurashige Y.	皮膚科	Paget phenomenon of the vulva with histopathological features of high-grade urothelial carcinoma (transitional cell carcinoma).	Eur J Dermatol 23: 556-557, 2013.
28	Matsumoto Y.	皮膚科	Anti-adalimumab and anti-infliximab antibodies developed in psoriasis vulgaris patients reduced the efficacy of biologics: Report of two cases.	J Dermatol 40: 389-392, 2013.

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(別紙)

NO	発表者氏名	所属部署	題名	雑誌名
29	Uchiyama M.	皮膚科	Case of Vogt-Koyanagi-Harada disease with psoriasis vulgaris.	J Dermatol 40: 355-356, 2013.
30	Uchiyama M.	皮膚科	Lupus miliaris disseminatus faciei involving the scalp resulted in cicatricial alopecia.	J Dermatol 40: 760-761, 2013.
31	Uchiyama M.	皮膚科	Mutations in SERPINB7, encoding a member of the serine protease inhibitor superfamily, cause Nagashima-type palmoplantar keratosis.	Am J Hum Genet 93: 945-956, 2013.
32	Mae K.	皮膚科	A Case of malignant peripheral nerve sheath tumor with rhabdomyoblastic differentiation: Malignant triton tumor.	Case Rep Dermatol 5: 373-378, 2013.
33	Yamamoto M.	皮膚科	S100A9 Is a novel ligand of EMMPRIN that promotes melanoma metastasis.	Cancer Res 73: 172-183, 2013.
34	Yamamoto M.	皮膚科	Kallikrein-related peptidase 5 functions in proteolytic processing of proflaggrin in cultured human keratinocytes.	J Biol Chem 288: 17179-17189, 2013.
35	Miyabe C.	皮膚科	Am80, a retinoic acid receptor agonist, ameliorates murine vasculitis through the suppression of neutrophil migration and activation.	Arthritis Rheum 65: 503-512, 2013.
36	Miyabe C.	皮膚科	Tiny disseminated angiomas from childhood.	Eur J Dermatol 23: 718-719, 2013.
37	Miyabe C.	皮膚科	CCL18 activates fibroblast-like synoviocytes in patients with rheumatoid arthritis.	J Rheumatol 40: 1026-1028, 2013.
38	Miyabe C.	皮膚科	Necessity of lysophosphatidic acid receptor 1 for development of arthritis.	Arthritis Rheum 65: 2037-2047, 2013.
39	Zhang E.	皮膚科	Sequence diversity of the intergenic spacer region of the rRNA gene of <i>Cryptococcus albidus</i> isolated from the skin of patients with atopic dermatitis and healthy individuals.	Microbiol Immunol 57: 74-76, 2013.
40	Saguchi T.	放射線科	Recanalization of iatrogenic dissection of the superior mesenteric artery : a case report	Vasc Endovasc Surg 47(4): 314-316,2013
41	Aso R.	臨床腫瘍科	Pitfalls in Training Simulated Patients to Respond Appropriately to Questions from Medical Students in Family History-taking Activities: The Current Situation Surrounding the Training of Simulated Patients for	J Nippon Med Sch 80: 57-62-2013
42	Abe Y.	卒後臨床研修センター	Repeated scenario simulation to improve competency in critical care: a new approach for nursing education	American Association of Critical Care, 22(1), 33-40, 2013

小計14
合計42

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有 無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有 無
・ 手順書の主な内容 申請対象、提出書類、参照すべき指針、申請から研究実施までの流れ	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 12回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 「③倫理審査委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有 無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有 無
・ 規定の主な内容 目的、基本方針、対象者、対象事例等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 1回

- (注) 「③利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 2回
・ 研修の主な内容 研究倫理の歴史、研究倫理の基本的な考え方等	

- (注) 「①臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において実施実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

別添資料ご参照：後期臨床研修プログラム

2 研修の実績

研修医の人数	118.3 人
--------	---------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
平山 陽示	総合診療科	臨床教授	30年	
大屋敷 一馬	血液内科	主任教授	36年	
瀬戸口 靖弘	呼吸器内科	教授	29年	
山科 章	循環器内科	主任教授	38年	
小田原 雅人	糖尿病・代謝・内分泌内科	主任教授	34年	
沢田 哲治	リウマチ・膠原病内科	准教授	27年	
森安 史典	消化器内科	主任教授	39年	
菅野 義彦	腎臓内科	主任教授	23年	
相澤 仁志	神経内科	主任教授	32年	
羽生 春夫	高齢診療科	主任教授	33年	
福武 勝幸	臨床検査医学科	主任教授	35年	
丸田 敏雅	メンタルヘルス科	准教授	27年	
河島 尚志	小児科	主任教授	33年	
三橋 善比古	皮膚科	教授	37年	
徳植 公一	放射線科	主任教授	33年	
長尾 俊孝	病理診断部	主任教授	23年	
池田 徳彦	呼吸器外科・甲状腺外科	主任教授	28年	
荻野 均	心臓血管外科	主任教授	32年	
土田 明彦	消化器外科・小児外科	主任教授	32年	
石川 孝	乳腺科	主任教授	27年	
後藤 浩	眼科	主任教授	30年	
河野 道宏	脳神経外科	主任教授	27年	
河野 淳	耳鼻咽喉科	教授	29年	
山本 謙吾	整形外科	主任教授	31年	
松村 一	形成外科	主任教授	27年	
内野 博之	麻酔科	主任教授	27年	

井坂 恵一	産科・婦人科	主任教授	37年
橘 政昭	泌尿器科	主任教授	38年
上野 竜一	リハビリテーションセンター	臨床講師	24年
水野 泰孝	感染症科	准教授	20年
行岡 哲男	救命救急センター	主任教授	38年

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

【看護師】

①研修の主な内容：

「エンド・オブ・ライフ・ケア」＜看護実践能力＞

・全10モジュール

- 1.エンド・オブ・ライフ・ケアにおける看護、 2.痛みのマネジメント、
- 3.症状マネジメント、 4.エンド・オブ・ライフ・ケアにおける倫理的問題、
- 5.エンド・オブ・ライフ・ケアにおける文化への配慮、 6.コミュニケーション、
- 7.喪失・悲嘆・死別 8.臨死期のケア、 9.高年者のエンド・オブ・ライフ・ケア、
- 10.質の高いエンド・オブ・ライフ・ケアの達成

研修の期間・実施回数：平成25年10月4日(金)、10月30日(水)、11月11日(月)・3回

研修の参加人数：11名

②研修の主な内容：

「シミュレーション教育とその指導法を体験してみよう」

- ・医療におけるシミュレーション教育とは、臨床への活用（講義）
- ・シミュレーション体験を通して、教材としてのシナリオを用いた学習支援法を学ぶ（演習）
- ・シナリオの作成の方法(講義)
- ・シミュレーションの教育プログラムのシナリオ（指導案）作成体験、指導方法の共有

研修の期間・実施回数：平成25年8月2日(金)・1回

研修の参加人数：18名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

【看護師】

①研修の主な内容：

「安全」＜マネジメント能力＞

- ・東京医科大学の医療安全管理体制について
- ・自部署のリスクマネジメントについて
- ・安全における手順の位置づけ
- ・業務手順の検討（グループワーク）

採血、注射を行う時の3点チェックを確実に実施するための対策と業務手順について

研修の期間・実施回数：平成26年1月14日（火）・1回

研修の参加人数：10名

②研修の主な内容：

「看護管理」＜マネジメント能力＞

- ・「管理とは・看護管理とは」、「看護管理の目的とは・目的を達成するには」、看護管理の実際（講義）
- ・「問題解決の基本手順」、「目標管理とBSC」（講義）
- ・クロスSWOT分析の方法について

研修の期間・実施回数：平成26年2月15日（土）・1回

研修の参加人数：12名

【看護師・コメディカル・事務】

①研修の主な内容：

看護師・コメディカル・事務の中堅職員から選抜された多職種にわたる研修会。（医師も含む）

医療安全・個人情報・病院経営などを題材とする。

研修の期間・実施回数：1泊2日の研修・年2回

(1) 平成 25 年 11 月 29・30 日

(2) 平成 26 年 6 月 20・21 日

研修の参加人数：(1) 57 名、(2) 53 名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。なお、平成二十六年度中の業務報告においては、平成二十六年四月以降の実績（計画）を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかにすること）。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2) 現状
管理責任者氏名	病院長 (坪井良治)
管理担当者氏名	事務部長 (吉田長司)、薬剤部長 (明石貴雄)、総務課長 (出家敏之)、 事務部次長/医事課長 (宮野春樹)、人事課長 (中野隆介)、 中央病歴室長 (山本謙吾)、安全管理室長 (三木保)、 感染制御部長 (水野泰孝)、臨床工学部長 (内野博之)、各診療科長、 総合相談・支援センター長/生涯教育センター長 (土田明彦) 研究支援課課長 (大須賀浩)

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、 手術記録、看護記録、検査所見記録、 エックス線写真、紹介状、退院した患 者に係る入院期間中の診療経過の要約 及び入院診療計画書		総務課 薬剤部 中央病歴室	日誌等はファイルにより保管。 診療に関する諸記録はターミナル デジタルファイリング方式を取 り、入院・外来別に1患者1ファイル を原則に保管管理している。
病院の管理 及び運営に 関する諸記 録	従業者数を明らかにする帳 簿	人事課	担当する各部門において、コンピ ューター又はファイル等により保管 管理している。
	高度の医療の提供の実績	各診療科 医事課	
	高度の医療技術の開発及び 評価の実績	各診療科 研究支援課	
	高度の医療の研修の実績	各診療科	
	閲覧実績	総務課	
	紹介患者に対する医療提供 の実績	医事課	
入院患者数、外来患者及び 調剤の数を明らかにする帳 簿	薬剤部 医事課		
第規 一則 号第 一 掲条 げの 十 体 制第 一 確 項 保各 の号 状及 況 第 九	医療に係る安全管理 のための指針の整備状 況	安全管理室	担当する各部門において、コンピ ューター又はファイル等により保管 管理している。
	医療に係る安全管理 のための委員会の開催 状況	安全管理室	
	医療に係る安全管理 のための職員研修の実 施状況	安全管理室 生涯教育セン ター	
	医療機関内における 事故報告等の医療に係 る安全の確保を目的と した改善のための方策 の状況	安全管理室	
	専任の医療に係る安 全管理を行う者の配置	安全管理室	

	条の二十第一項	状況	
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
		医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	安全管理室
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	総合相談・支援センター

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部 総務課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部 生涯教育センター
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学部 放射線部
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部 放射線部		

担当する各部門において、コンピューター又はファイル等により保管管理している。

	況 医療機器の安全使用 のために必要となる情 報の収集その他の医療 機器の安全使用を目的 とした改善のための方 策の実施状況	臨床工学部 放射線部	
--	---	---------------	--

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	② 現状
閲覧責任者氏名	病院長 (坪井良治)	
閲覧担当者氏名	事務部長 (吉田長司)、薬剤部長 (明石貴雄)、 総務課長 (出家敏之)、事務部次長/医事課長 (宮野春樹)、 人事課長 (中野隆介)、中央病歴室長 (山本謙吾)、 安全管理室長 (三木保)、感染制御部長 (水野泰孝)、 臨床工学部長 (内野博之)、各診療科長、 総合相談・支援センター長/生涯教育センター長 (土田明彦) 研究支援課課長 (大須賀浩)	
閲覧の求めに応じる場所	本館6階 会議室	
閲覧の手続の概要	医療法の定めに基づき、当院に患者を紹介しようとする医師からの文書又は厚生労働大臣及び都道府県知事などが必要と認めた検査実施の公文書をもって通知を受けたときに閲覧に供する。	

(注) 既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	2 件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	1 件
	地方公共団体	延	1 件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	④・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>1. 目的</p> <p>この指針は、学校法人東京医科大学における医療安全に関する基本指針の趣旨に基づき、東京医科大学病院（以下「病院」という。）における医療の安全を確保するために必要な体制及び医療事故発生時の対応方法を示し、もって良質で安全な医療提供に寄与することを目的とする。</p> <p>2 基本的な考え方</p> <p>1) 質の高い医療を持続して提供するためには、安全管理体制のより一層の充実を目指す姿勢が重要である。この姿勢の確保は、全ての医療従事者の責務であり、全職員が医療の質の向上と安全の推進に取り組まなければならない。</p> <p>2) 病院長は個人の努力に依拠する安全管理には限界がある事を認識し、組織を挙げた安全管理の構築に努める必要がある。</p> <p>3. 組織及び体制</p> <p>1) 病院長は「学校法人東京医科大学における医療安全に関する基本指針」第 2 条第 2 項各号に従い、次に掲げる者を任命し、又は部門を設置する。</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 医療安全管理委員会(2) 安全管理室(3) 統括安全管理者(4) 感染制御部(5) 医薬品安全管理者(6) 医療機器安全管理者(7) 総合相談・支援センター <p>2) 病院長は、前項各号に掲げる者または部門の運営に係る事項を定める。</p> <p>3) 病院長は、第 1 項第 3 号に定める者に係る事項を定めるにあたっては、以下に掲げる業務を含むように努めなければならない。</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 安全体制の構築(2) 医療安全に関する職員への教育・研修の実施(3) 医療事故を防止するための情報収集、分析、対策立案、フィードバック、評価(4) 医療事故への対応(5) 安全文化の醸成	

4. 職員研修

病院長は、医療に係る安全管理のための全職員に対する研修を実施する。

5. 報告に基づく安全管理体制

全職員は、患者に望ましくない事象が発生した場合、またはその可能性を発見した場合には、別に定める規定に基づく報告をしなければならない。

6. 医療事故発生時の対応

- 1) 全職員は、患者に有害事象が発生した場合、患者の回復並びに患者及び家族等に対する情報提供に努める。
- 2) 病院長は、患者に有害事象が発生した場合の対応に係る事項を定める。

7. 医療従事者と患者の情報共有等

- 1) 全職員は、患者等の個人情報を保護する義務を有する。
- 2) 病院長は、個人情報保護に係る事項を定める。
- 3) 全職員は、患者が疾病や診療内容等を十分理解し医療上の意思決定が出来るように、情報共有と説明を行う。
- 4) 全職員は、患者との情報共有に努める。
- 5) 病院長は、患者その他の病院利用者及び全職員が本指針を閲覧可能とすること。

8. 患者からの相談への対応

病院長は、患者からの相談に対応する部門を設置し及び相談に関する手続きを定める。

② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況

年12回

・ 活動の主な内容：

- (1) 医療事故発生防止のための総合的な対策と施設及び設備の改善計画の立案
- (2) 医療事故等発生状況の把握及び調査検討・病院報告制度の整備
- (3) 発生した重大な医療事故への対応と、改善策の職員への周知徹底

③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況

年89回

・ 研修の主な内容：

- 1) 医療法に定められた従業員必須研修の実施安全に係わる研修は6月と11月に開催している。
全職員を収容する設備がないが、直接講演を聞くことが最良と考え5日間にわたり(月～金曜日)連日同じ内容で研修を行っている。
それでも参加ができなかった者に対し、DVD上映を開催しフォローしている。
参加状況に関して、研修参加時に職員ネームカードをカードリーダーに通しデータの管理を行い、個人別、所属別の参加・不参加の把握をしている。不参加者には医療安全管理者(正・副)に不

参加者リストを配信し、DVD上映会に参加を促すなどの対策を講じている。

2) メモリアルデー（医療安全を誓う日）の開催

当院独自の職員聴講義務研修会である。

当院の重大医療事故発生を契機に、平成17年より「医療安全を誓う日」として、毎年8月第1土曜日に実施している。本講演1回とし参加できなかった職員に対して、DVD上映会を行っていた。平成26年度より、上映会ではなく各所属へDVDを配布し、職場安全会議等を活用したDVDの視聴を医療安全管理者に依頼した。視聴後はレポートを提出とした。また、講演は一般市民、患者へも公開としている。

3) 中心静脈（CV）ライン挿入に関する研修（平成25年度：座学・実技研修を合わせ24回）

当院でCVラインを挿入するためには、院内規定に沿った審査を受け認定される必要がある。5年目以上の医師は条件を満たすと「認定医」となり、研修医は「施行医」として認定される。CVラインを安全に挿入するための教育はCVライン管理部会が担っており、知識、技術の研修を定期的に行っている。手技の習得は、卒後臨床研修センターと協力して実施している。

4) 中途採用・帰任者必須研修の実施

安全・感染・個人情報など、安全に関する共有と周知の目的で中途採用・帰任者に対し研修を行っている。研修はEラーニングで行われ、受講状況・理解度に関して卒後臨床研修センターと情報を共有し管理を行っている。

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備（有・無）
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

(1) インシデント・アクシデントレポート報告方法の変更 → イントラネットでの報告

(2) 医療事故報告範囲基準の変更

(3) 日本医療機能評価機構への報告

(4) 医療事故防止および医療の質確保に関する活動

- ・ 全死亡例患者の報告制度の設置

(5) 医療安全推進委員会（多職種混成チーム）による定期的院内巡視と評価

- (6) 情報の一元化（職員が知っておくべき共有ファイルの指定と管理）
- (7) 多職種による合同カンファレンスの推進（職場安全会議）
- (8) インフォームド・コンセント時の複数立ち会いの推奨（看護師の立ち会いの推奨）
- (9) 医療安全情報の配信（医療安全情報等）
- (10) 「安全管理ポケットマニュアル」の改定作業
- (11) 抗がん剤、高カロリー輸液などの中央調剤システムの構築
- (12) 院内「内部通報制度」の構築等

(13) 病院倫理委員会の設置によるコンプライアンス（法令遵守）に関わる活動

- 1) 学校法人設置のコンプライアンス推進委員会へ出席し情報を共有
- 2) 病院倫理委員会へ出席し情報を共有
- 3) 終末期医療のあり方に関するガイドライン作成
- 4) 非輸血患者の対応に関するガイドライン作成
- 5) 包括同意に関する文書作成

(14) 三施設間安全相互ラウンドの実施

東京医大病院には三施設の病院がある。同系列病院として安全管理の質向上と相互理解、情報共有などを図る目的で、三病院医療安全相互ラウンドを実施。

⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	⑤ (4名) ・無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	⑥ (5名) ・無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	⑦ ・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 所属職員： 専任（ 4 ）名 兼任（ 4 ）名 ・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> (1) 医療安全管理委員会開催のための資料準備および議事録作成と管理 (2) 医療安全推進に関わる各委員会の開催と資料作成、議事録などの管理 <ul style="list-style-type: none"> 1) 院内病因死因検討会（M&M 検討会）の開催 2) 医療安全推進委員会の開催 3) CV ライン管理部会の開催 4) RRS 部会開催 他 	

(3) 医療安全管理者会議の開催

各部門の医療安全管理者（リスクマネージャ）の研修に関する運営と評価

(4) 各部門における医療安全推進の状況把握と評価

(5) 安全に関する他委員会との連携強化

- 1) 感染症対策委員会との連携と情報共有
- 2) 医薬品安全管理責任者との連携と情報共有
- 3) 医療機器安全管理責任者との連携と情報共有
- 4) 個人情報保護委員会との連携と情報共有
- 5) 総合相談・支援センターとの連携と情報共有
- 6) がん化学療法レジメン審査委員会との連携と情報共有
- 7) 中央手術部運営委員会との連携と情報共有

(6) 医療事故など発生時の対応と指導、職員への周知

- 1) 医療事故発生時の原因究明に関する調査および対策に関する活動
- 2) 臨時院内病因死因検討会（M&M 検討会）および医療事故調査委員会開催に関する資料準備、議事録作成と管理等
- 3) 管轄官庁届出に関する作業および記録類の管理
- 4) 職員への指導および援助、再発防止に関する対策構築
- 5) 患者、家族への対応

(7) 医療安全に係る取り組みの評価を行うためのカンファレンスの実施

安全管理室ミーティング内で検討している

(8) 医療安全に係る職員への教育研修会の企画と運営と評価

(9) その他医療安全対策の推進に関すること

⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

○有・無

(様式第 6)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 院内感染対策の基本的な考え方を示して、感染症発生防止に留意し、発生時には速やかな制圧を全職員で図る。2. 病院長直属の中心的な組織、感染制御部を設ける。3. 対策の病院全体への周知・実施を行っていくため、感染症対策委員会と感染対策小委員会の設置、感染リンクドクター・リンクナースを配備する。4. 病院職員に対しては基本的な考え方や具体的な方策に関する研修会を開催する。5. 感染症に関する注意情報を随時発するとともに、院内における耐性菌の検出状況を委員会・診療合同会議にて報告する。6. 感染症発生時には職員は、すみやかに感染制御部へ報告し、感染制御部は原因究明・改善策を委員会にあげる。委員会から全職員に改善策を周知徹底させる。7. 指針は患者その家族が閲覧できる。患者・家族にも感染防止の意義や手技を説明し、協力を求める。8. 職員はマニュアルを遵守するとともに、自らの健康管理に留意する。	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 13 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 微生物検査室からの耐性菌分離レポートの集計結果による発生動向の把握と分析2. 感染制御部病棟ラウンド状況の報告（対象：広域抗菌薬長期間投与例、耐性菌分離例、アウトブレイク事例等）3. 感染制御部立案の具体的対策案について、各種職種代表者による審議4. 対策案・注意喚起情報の職員への周知（診療合同会議・科長会議・師長会議・総医局会・中央診療部門の各部署での会議や院長通達、サイボウズや書面等による委員会からの情報発信など）5. マニュアル・ガイドラインなど院内全般に渡る規約の最終決議	

③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況

年 71 回

・研修の主な内容：

- (1) 新採用者オリエンテーション：院内感染対策組織・マニュアル、標準予防策、感染経路別予防策、針刺し・血液曝露、手指衛生・个人防护具着脱演習
- (2) 医療安全講演：感染予防策の基本、マニュアル改訂にあたって、医療安全について、個人情報保護について
- (3) 定例研修会：実践 遵守率がアップする手指衛生対策のポイント、院内感染対策－抗菌薬の適正使用－、感染制御の基本とファシリティマネジメント
- (4) 感染リンクナース研修：標準予防策、感染経路別予防策、手指消毒、PPE着脱、耐性菌検出時の感染拡大防止対策、季節性流行疾患の予防と対策、感染リンクナースの役割、年間目標・活動計画、速乾性擦式アルコール製剤使用量報告、環境ラウンド、グループディスカッション
- (5) 臨床研修医のためのレクチャー：感染症診療のフレームワーク、血液培養、微生物・抗菌薬培養検査とその解釈、感染症治療の評価
- (6) 委託業者への勉強会：病院清掃における感染対策
- (7) 中途採用・帰任者医療安全研修会：医療安全、感染対策、個人情報
- (8) その他：感染対策シミュレーション研修、SSI予防のための抗菌薬投与、PPE選択・着脱トレーニング、看護助手研修

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・病院における発生状況の報告等の整備 (有 ・無) 感染症リストによる電話・報告書提出
- ・その他の改善のための方策の主な内容：

- (1) 耐性菌発生を減らすための広域抗菌薬一定期間使用者リストアップ・血液培養陽性者/耐性菌検出者リストアップに対する現場のラウンドによる指導
- (2) 院内感染対策ラウンドによる基本手技、医療行為、病院環境のチェックと指導
- (3) マニュアルの見直し・検討・改訂
- (4) 感染リンクナースの年間活動計画に基づくグループ活動の実施
- (5) 感染リンクナースによる自己チェック表を用いた自己評価と改善活動報告
- (6) 各部署における耐性菌アウトブレイク値の設定に基づく早期介入
- (7) 人事課との協同によるワクチン接種プログラムの計画立案・実施・評価
- (8) サイトビジットを含む感染防止対策地域連携加算に関する連携医療機関とのカンファレンス
(実施回数：4回)

(様式第 6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	☑・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>(1) 新規採用者研修（麻薬の管理、劇・毒薬の管理、向精神薬の管理、覚せい剤原料の管理、血漿分画製剤の管理）</p> <p>(2) 医薬品に関する研修（全職員対象：第三種向精神薬の管理・薬剤隔壁開通確認について）</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 (☑・無)</p> <p>・ 業務の主な内容：</p> <p>手順書及びチェックシートを作成した。チェックシートによる業務の確認は病院全体及び薬剤部については年 2 回、病棟については月 1 回行い、期限切迫医薬品の回収も併せて行っている。採用医薬品については医療安全の観点からも検討している。</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (☑・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>(1) 医薬情報室には専任薬剤師を 3 名配置している。</p> <p>(2) 医薬品の安全使用に関する情報は厚生労働省ホームページ、インターネット、新聞、雑誌、製薬企業等から入手し必要に応じて加工し、イントラネット（薬剤部ニュース）、薬事ニュース、各種会議で解説・周知している。</p> <p>(3) 外観変更医薬品の画像を薬事ニュースに掲載、また、院内で発生した医薬品副作用報告を薬事ニュースに掲載している。</p> <p>(4) 新たに GCU・NICU を含む全ての病棟に手術室、ICU・CCU にも薬剤師を配置し医薬品の適正な使用、在庫管理をしている。</p> <p>(5) インシデントレポート等を分析して、診療科、各部署に必要な情報を提供している。</p>	

(様式第 6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 97 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>人工呼吸器をはじめ、厚生労働省の指導事項である特定管理医療機器の7機種(粒子線照射装置は保有しない)等及び新規採用時の機器に対しての説明会や研修会を、関係する医療従事者に対して、有効性・安全性・使用方法・保守点検に関する事項、その他不具合が発生した場合の対応、使用に際し法令上、遵守すべき事項などについて実施している。(人工呼吸器、人工心肺と補助循環、除細動器、血液浄化装置、閉鎖式保育器、高エネルギー放射線装置、放射線照射装置、輸液ポンプ、シリンジポンプなど)</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 計画の策定 (有・無)</p> <p>・ 保守点検の主な内容：</p> <p>人工呼吸器、人工心肺と補助循環、除細動器、血液浄化装置、閉鎖式保育器、高エネルギー放射線装置、放射線照射装置、輸液ポンプ、シリンジポンプなどに対して、年度計画にもとづきメーカーによる年1~2回の定期保守点検のほか、使用前・使用中・使用后点検等を、臨床工学部内及び現場の医師・看護師・技士(師)により実施している。一昨年より、臨床工学部では中央管理業務の業務委託を導入し、医療機器管理の質の向上を図っている。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>メーカーや日本医療機能評価機構、PMDA等から出される情報の収集は、関連部署はもとより安全管理室・臨床工学部・事務部資材課にて行われており、必要に応じて、安全管理室より緊急情報として院内全体に発信される。部門対象の機器については、当該部署の関係者へ報告周知している。医薬品医療機器等安全性情報は医薬品安全管理責任者が収集するが、医療機器についての情報が含まれることがあるため、発信者として薬剤部医薬情報室と医療機器安全管理責任者の連名とし、診療合同会議および院内LANでの一斉周知することとした。機器の安全使用を目的とした改善の実施については、院内配置の麻酔器について機種統一を図る計画を推進中。院内の水銀血圧計を廃止する方向で、看護部と協力して、電子卓上式血圧計、アネロイド式血圧計の導入を検討、電子カルテに連携出来る機種を購入予定。また、長年院内で使用経験のある低圧持続吸引器の取り扱い上のインシデントが連続して発生したことから、安全管理室、臨床工学部、メーカーとともに、簡易マニュアルの作成と説明会を計画中。医療機器の安全使用に関する連絡会を適宜開催しているが、平成26年10月から医療機器安全管理委員会として発足させ定期的に開催、医療機器に関する諸事項について検討することとなった。</p>	

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有 <input checked="" type="radio"/> 無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有 <input checked="" type="radio"/> 無
・情報発信の方法、内容等の概要	
①ホームページ	
【患者向け】	
・先進医療一覧の掲載 ・がん診療拠点病院に関する当院の役割、院内登録データ、がん相談窓口の掲載 ・手術支援ロボット「ダヴィンチ」手術の説明と対象疾患の掲載	
【医療機関向け】	
・研究会・セミナーの案内	
②市民公開講座	
・毎月（1月・8月を除く）、病院の医師が講師となる市民公開講座で、最先端の医療情報から生活に即した実用的な医学情報までを講演。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無

有 無

・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要

脳卒中センター

脳卒中に関連する4診療科（救命救急センター、脳神経外科、神経内科、高齢診療科）が連携し、あらゆるタイプの脳血管障害に迅速に対応する体制を整えている。4診療科は1つのチーム（脳卒中センター）として定期的に合同会議を行い、脳卒中患者の情報を共有して総合的に治療にあたっております。